

Fukuoka Asian Art Museum Art Exchange Programs Annual Report 07-08

平成19年度 福岡アジア美術館交流事業報告書



福岡アジア美術館交流事業

□美術交流事業

本事業は、アジア各地で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を一定期間招聘し、様々な美術交流事業を行うことで、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助となることを目指すとともに、アジア美術の活性化を目的にしている。

□美術教育交流事業

本事業は、アジアの国・地域から美術教師や生徒を招聘し、本市の美術教師や生徒とともに展覧会の企画・展示やワークショップ等を行うことで、文化・国際交流をはかることを目的にしている。また、教育関係者とのディスカッションの場を提供し、美術教育の現状等についての相互の理解を深める。

平成19年度福岡アジア美術館交流事業報告

美術交流事業は、被招聘者の選考方法を公募制にし、18カ国・地域から95人（美術作家73人、研究者・学芸員22人）の応募があった。美術交流事業招聘者選考委員会で美術作家がキム・イルグン（韓国）、プッティボン・アルーンペン（タイ）、アブドゥス・サラム（バングラデシュ）、シャーマン・オン（マレーシア）、研究者がチョ・ジョンラン（韓国）とアミヌディン・トゥア・ハモナンガン・シレガー（インドネシア）を選考した。滞在期間を3期に分け、5月、9月、翌年の1月から各々3ヵ月間招聘した。

また、美術教育交流事業は韓国の釜山芸術高等学校から美術教師と生徒を招聘し、福岡市内の4つの高校の美術教師・生徒と「おいでよ！ 絵本ミュージアム」展に関連した3つのワークショップを通して交流を図った。

招聘美術作家	
キム・イルグン（韓国）	3
プッティボン・アルーンペン（タイ）	7
アブドゥス・サラム（バングラデシュ）	11
シャーマン・オン（マレーシア）	15
招聘研究者	
チョ・ジョンラン（韓国）	19
アミヌディン・トゥア・ハモナンガン・シレガー（インドネシア）	22
地域交流イベント	
美術教育交流事業	25
実施要綱、概要	
福岡アジア美術館 美術作家・研究者・学芸員等招聘事業実施要綱、要領	27



招聘美術作家
キム・イルグン / Kim Ilgeun (韓国)
滞在期間: 5月9日～8月2日

[プロフィール]
1976年生まれ。韓国、光州の朝鮮大学芸術学部(彫刻)を卒業し、同大学院で修士号を取得。
ボール紙を素材にして、日常品をモチーフにした彫刻作品を制作する美術作家。

主な活動

●市民共同制作

館内の美術情報コーナーに、ボール紙を素材にした汽車や線路からなる大がかりなインスタレーション作品『夢想的な風景』を制作した。写真①②③

●ワークショップ

「飛び出す絵本を作ろう」(6/9) 写真④⑤⑥

ボール紙で韓国の童話にもとづいた絵本を作った。
韓国教育院の小・中学生約20人(在日大韓基督教会福岡教会)

「ボール紙で音符を作ろう」(6/22)

東住吉中学校の生徒57人(彫刻ラウンジ)

「紙で遊ぼう」(6/23～7/16、計8回) 写真⑦

参加者(来館者)がボール紙で音符を作り、ボランティア・スタッフが制作した五線譜に貼り付け、日本の唱歌「ふるさと」の楽譜を完成させた。
一般参加者108人(彫刻ラウンジ)

「乗り物を作ろう」(7/13) 写真⑧⑨

「施設を活用した体験学習」で訪れた特別支援学校高等部の生徒とペットボトルや紙の箱などで立体作品を作った。
生の松原特別支援学校の生徒64人(彫刻ラウンジ)

「カメラ・オブスキュラを作ろう」(7/28) 写真⑩⑪

ボール紙で写真機の原型になったカメラ・オブスキュラを作った。
応募者30人(交流スタジオ)

●トーク

「アーティスト・トーク」(5/12) 写真⑫⑬

これまでの活動や過去の作品、滞在中のプランについて紹介した。
一般参加者65人(あじびホール)

「スクール・プログラム」(7/12) 写真⑭

「施設を活用した体験学習」で訪れた中学生に、制作中の作品について説明した。
原北中学校の生徒249人(彫刻ラウンジ)

「アーティスト・トーク」(7/21) 写真⑮

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」の開会式後、福岡で制作した『夢想的な風景』について語った。
一般参加者73人(彫刻ラウンジ)

「スクール・プログラム」(7/27)

九州大学主催の夏期海外研修に参加した海外の大学生に、これまでの活動について語った。
海外の大学生26人(会議室)

●展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(7/21～8/5) 写真⑯～⑳

ボール紙を素材にした汽車と線路からなる大掛かりなインスタレーション作品『夢想的な風景』を美術情報コーナーに展示した。

滞在風景

インスタレーション作品『夢想的な風景』制作風景 ①②③



ワークショップ

「飛び出す絵本を作ろう」(6/9) ④⑤⑥



「紙で遊ぼう」(6/23～7/16、計8回) ⑦



「乗り物を作ろう」(7/13) ⑧⑨



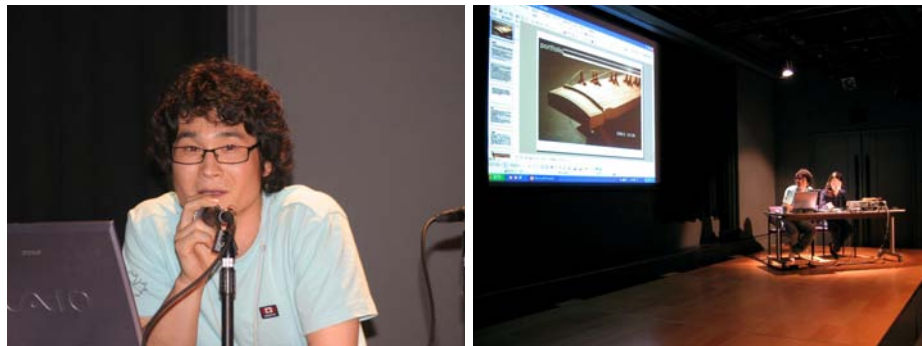
ワークショップ

「カメラ・オブスキュラを作ろう」(7/28) ⑩⑪



トーク

「アーティスト・トーク」(5/12) ⑫⑬



「スクール・プログラム」(7/12) ⑭



「アーティスト・トーク」(7/21) ⑮



展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(7/21～8/5) ⑯～⑲

インスタレーション作品『夢想的な風景(A Dream-like Scene)』





招聘美術作家
プッティポン・アルーンペン / Phutti Phong Aroonpheng (タイ)
滞在期間:5月16日～8月14日

[プロフィール]
1976年生まれ。タイのシラパコーン大学芸術学部(版画)を卒業。
フリーランスのアート・ディレクターを経て、アメリカのアート・スチューデント・リーグとデジタル・フィルム・アカデミーで映像を学んだ。
ビデオ作品のほか、コマーシャルやミュージック・ビデオなども制作する映像作家。

主な活動

●市民共同制作

福岡に住む37人の人たちが知人・友人を次々に紹介して、人の輪と物語がどんどんつながっていくビデオ作品『みんな知り合い』(57分)を制作した。写真①～⑧

●ワークショップ

「ミュージック・ビデオに挑戦」(5/29～6/2、計4回) 写真⑨～⑫

福岡とシンガポールの高校生が混合チームになって音楽を自由に選び、ミュージック・ビデオを制作した。
九州産業大学附属九州高等学校の生徒14人とシンガポールの高校生19人(九州高等学校)

「光の軌跡を描こう」(7/28) 写真⑬⑭

子どもたちがペンライトを持って真っ暗な空間を動き回り、プッティポンがその光の軌跡を撮影した。
応募者(小学生)30人(あじびホール)

●トーク

「上映会&アーティスト・トーク」(7/21) 写真⑮

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」の開会式後、福岡で制作した『みんな知り合い』を上映し、作品について語った。
一般参加者55人(あじびホール)

「スクール・プログラム」(7/27)

九州大学主催の夏期海外研修に参加した海外の大学生に、これまでの活動について語った。
海外の大学生26人(会議室)

●展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(7/21～8/5) 写真⑯～⑳

ビデオ作品『みんな知り合い』をアジアギャラリーと彫刻ラウンジで上映した。

滞在風景

『みんな知り合い』撮影風景 ①～⑧



ワークショップ

「ミュージック・ビデオに挑戦」(5/29～6/2、計4回) ⑨～⑫



「光の軌跡を描こう」(7/28) ⑬⑭



トーク

「上映会&アーティスト・トーク」(7/21) ⑮



展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(7/21～8/5) ⑯～⑳

ビデオ作品『みんな知り合い(We all know each other)』





招聘美術作家
アブドゥス・サラム / Abdus Salam (バングラデシュ)
滞在期間:9月10日～12月11日

[プロフィール]
1971年生まれ。バングラデシュのダッカ大学芸術学部で修士号(美術)を取得。
バングラデシュの大衆文化や政治を題材にした絵画や版画を制作する美術作家。

主な活動

● 市民共同制作

福岡市の櫛田神社や聖福寺、大分県竹田市の岡城址などで歴史の記憶をとどめた建造物や遺物などを紙に写し取る『スペース・プリント』を制作。また、福岡市総合図書館で福岡大空襲について調査し、資料をもとにしてインスタレーション『福岡大空襲後』を制作した。写真①～⑫

● ワークショップ

「バナナの木で囲まれたステージを紙細工で飾ろう」(10/5) 写真⑬⑭
ハサミで切り抜いて紙細工を作り、ステージに飾った。
若久特別支援学校高等部の生徒27人(美術情報コーナー)

「愛と希望の絵を描く」(10月中頃～) 写真⑮

長いロール紙にマジックペンで愛と希望をテーマにした絵やメッセージを描いた。
一般参加者約50人(彫刻ラウンジ)

「バングラデシュの竹細工を作ろう」(10/25) 写真⑰⑱⑲

バングラデシュの儀式で使われる竹細工を制作した。
大分県豊後市立小富士小学校の全児童24人(小富士小学校)

「バナナの木で囲まれたステージを紙細工で飾ろう」(11/2)

住吉小学校1・2年生41人(美術情報コーナー)

「バナナの木で囲まれたステージを紙細工で飾ろう」(11/6)

住吉小学校3・4年生43人(美術情報コーナー)

「バングラデシュのリキシャを作ろう」(11/10)

バングラデシュを走るリキシャのように自転車を紙細工で装飾した。
小・中学校の児童・生徒27人(こども総合相談センター)

「愛と希望の絵を描く」(11/15) 写真⑰

長いロール紙に愛と希望をテーマにした絵を描いた。
千早小学校6年生77人、名島小学校6年生148人
(彫刻ラウンジ)

「バングラデシュの民話から木のレリーフを作ろう」(11/16～11/20、計5回) 写真⑳～㉔

1枚の板にバングラデシュと日本の民話を題材にしたレリーフを制作した。
応募者12人(交流スタジオ)

● トーク

「スクール・プログラム」(9/13)

バングラデシュの文化について紹介した。
有田小学校3年生90人、南当仁小学校6年生109人
(あじびホール)

「アーティスト・トーク」(9/22)

これまでの活動や過去の作品、滞在中のプランについて紹介した。
一般参加者約50人、美術情報コーナー

「アーティスト・トーク」(12/1)

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」の開会式後、福岡で制作した『スペース・プリント』について語った。
一般参加者67人(彫刻ラウンジ)

● 展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」(12/1～12/25) 写真㉓～㉕

博多に残る史跡や戦争を物語る遺品などを写し取った版画シリーズ『スペース・プリント』や福岡大空襲のインタビュー資料に基づいた立体作品『福岡大空襲後』、「美」や「愛」とは何かを人々に問いかけた作品などを、彫刻ラウンジと美術情報コーナーで展示した。

● その他

同時期に滞在していたシャーマン・オンのビデオ作品『はし』に出演。

滞在風景

制作風景 ①～⑫



ワークショップ

「バナナの木で囲まれたステージを紙細工で飾ろう」(10/5) 13 14 「愛と希望の絵を描く」(10月中頃～) 15 16



「バングラデシュの竹細工を作ろう」(10/25) 17 18 19



「バングラデシュの民話から木のレリーフを作ろう」(11/16～11/20、計5回) 20～22



展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」(12/1～12/25) 23～25



『福岡大空襲後 1945 (After the Air Attack in Fukuoka, 1945)』



『スペース・プリント (Space Print)』(13点)



招聘美術作家
シャーマン・オン / Sherman Ong (マレーシア)
滞在期間:9月12日～12月13日

[プロフィール]
1971年生まれ。テレビ番組のディレクターを経て、アート活動を展開。
写真を組み合わせて、目で見える「俳句」のような組写真や、多様な民族・宗教・文化が渦巻く東南アジアの今を
様々な角度から切り取ったビデオ作品を制作する映像作家。

主な活動

●市民共同制作

14人の出演者の実体験をもとに、シャーマン自身が脚本を書き下ろした、三世代にわたる現代に
生きる女性の焦燥感を描いた実験的な映像作品『はし』のほか、日本の俳句に着想を得た写真シ
リーズ『ビジュアル俳句』や、福岡に住む女性たちをモデルにして各々の過去の想い出をテーマに
した写真作品『ミッシング・ユー』を制作した。写真①～⑪

●ワークショップ

「友だちの写真を撮ろう」(10/10) 写真⑫

友だち同士が向き合ってデジタルカメラで写真を撮り合った。
今津特別支援学校中等部の生徒15人(今津特別支援学校)

「大好きな人や家族のお面を作ろう」(10/22) 写真⑬～⑮

好きな人の仮面を作り、それを被ってポーズをとった児童を一人ずつシャーマンが撮影した。
飯原小学校2年生54人(飯原小学校)

「マレーシアの音楽に合わせて身体表現」(10/29) 写真⑯⑰

10人程度のグループに分かれて、マレーシアの音楽に合わせてパフォーマンスを行い、シャー
マンがビデオを撮った。
住吉小学校5・6年生50人(あじびホール)

●トーク

「アーティスト・トーク」(9/22)

これまでの活動や過去の作品、滞在中のプランについて紹介した。
一般参加者約50人(美術情報コーナー)

「アーティスト・トーク」(12/1)

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」の開会式後、福岡で制作した作品につ
いて語った。
一般参加者67人(彫刻ラウンジ)

●上映会

「上映会」(12/1)

『はし』を上映した。
一般市民56人(あじびホール)

「上映会」(12/9) 写真⑱⑲

『はし』とこれまでに撮影した短編作品を上映した。
一般参加者53人(交流スタジオ)

●展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」(12/1～12/25) 写真⑳～㉓

彫刻ラウンジで『ミッシング・ユー』、中8階で『ビジュアル俳句』を展示し、美術情報コーナーでビ
デオ作品『はし』を上映した。

滞在風景

制作風景 ①～⑪



ワークショップ

「友だちの写真を撮ろう」(10/10) ⑫



「マレーシアの音楽に合わせて身体表現」(10/29) ⑬⑭



「大好きな人や家族のお面を作ろう」(10/22) ⑮～⑰



上映会

「アーティスト・トーク」(12/9) ⑱⑲

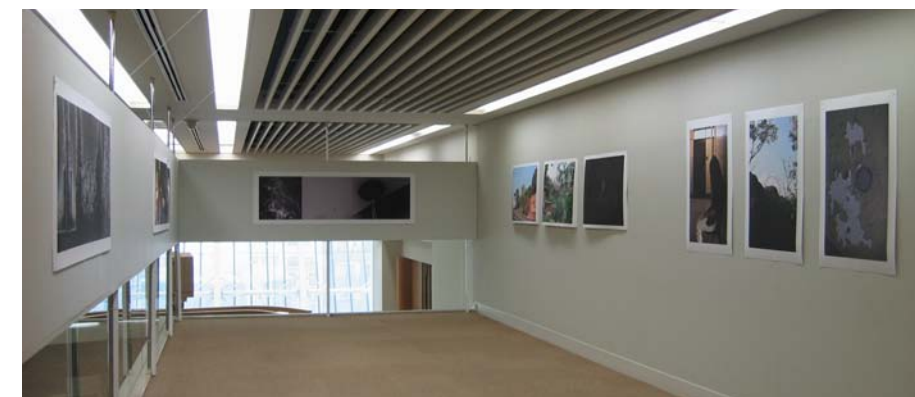


展覧会

「第8回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」(12/1～12/25) 写真⑳～㉙



『ミッシング・ユー(Missing You)』(19点)



『ビジュアル俳句(Visual Haiku)』(5点)



研究者・学芸員等招聘事業

チョ・ジョンラン / Cho Jeong-ran (韓国)

滞在期間: 1月8日～3月31日

【プロフィール】

1966年生まれ。韓国の全南大学で修士号を取得。

光州市立美術館の学芸員を経て、現在は巨済(コジェ)アートセンターの学芸員。

主な活動

◎調査・研究

障がいのある子どもたちと障がいのない子どもとの美術教育や、日本の美術館における子ども向けの美術教育プログラムについて調査・研究した。また、東京・滋賀・兵庫・島根の美術館等を訪問し、担当者と意見交換した(3/10～3/15)。写真①～⑨

◎講演会(あじび美術講座)

「音楽教育を通した美術ワークショップ: 障がいのある子どもと障がいのない子どもの自我表現について」(3/23) 写真⑩⑪

2008年、チョ・ジョンランが韓国でおこなったワークショップでは、知的障がいのある子どもとない子どもたちが、ヴィヴァルディとストラヴィンスキーの音楽をまず鑑賞し、その後に、曲から受けた印象や気持ちを絵で自由に表現した。このレクチャーでは、その過程を通して、美術と音楽の連携や、障がいのある子どもを含めた芸術教育のあるべき方向性を探った。

応募者46人(あじびホール)

◎トーク

「トーク」(1/19)

これまでの活動を紹介し、滞在中のプランについて説明した。

一般参加者63人(美術情報コーナー)

◎ワークショップ

「夢と希望を育てるギャラリー」(2/29) 写真⑫～⑭

第1部: 4年2組の児童8人が、当館の所蔵品ミン・ワエ・アウン『待つ』とヴァントウイエト『ライオン』を鑑賞し、どちらか好きな作品を感じたイメージで絵画に表現した。

第2部: ひまわり学級(特別支援学級)の児童が2組の児童とペアとなり、一緒に所蔵品を鑑賞し、一緒に作品を完成させた。

今宿小学校4年生8人、ひまわり学級の児童8人(今宿小学校)

「人型モザイクを作ろう」(3/4) 写真⑮～⑰

「施設を活用した体験学習」で訪れた中学生とのワークショップ。韓国と日本の材料を使って、人型のモザイクを作った。

西陵中学校2年生147人(企画ギャラリー)

調査・研究

①～⑨



研究者・学芸員等招聘事業

チョ・ジョンラン / Cho Jeong-ran (韓国)



研究者・学芸員等招聘事業

アミヌディン・トゥア・ハモンガン・シレガー /
Aminudin Tua Hamonangan Siregar (インドネシア)
滞在期間: 1月17日～4月1日

講演会(あじび美術講座)

「音楽教育を通じた美術ワークショップ: 障がいのある子どもと障がいのない子どもの自我表現について」(3/23) ⑩⑪



ワークショップ

「夢と希望を育てるギャラリー」(2/29) ⑫～⑭



「人型モザイクを作ろう」(3/4) ⑮～⑱



主な活動

●調査・研究

当館が所蔵するインドネシアの作品の調査や太平洋戦争中にインドネシアに設立された啓民文化指導所について研究した。写真①～⑤

●講演会(あじび美術講座)

「プロバガンダのための美術: インドネシア美術における日本の影響」(3/15) 写真⑥⑦

太平洋戦争中の1943年、インドネシアのジャワ島に「啓民文化指導所」という文化センターが設立された。この啓民文化指導所は、日本軍宣伝部の下部組織にあたり、文学、音楽、演劇、映画、美術などの幅広い分野でインドネシアの当時の文化に影響を与えた。このレクチャーでは、啓民文化指導所がインドネシア近代美術にどのような影響を与えたのかを考察した。

応募者49人(あじびホール)

●トーク

「トーク」(1/19)

これまでの活動を紹介し、滞在中のプランについて説明した。
一般参加者63人(美術情報コーナー)

「スクール・プログラム」(2/28) 写真⑧

インドネシアの文化について紹介した。
宗像市立大島中学校の全生徒20人(美術情報コーナー)

「スクール・プログラム」(3/11)

インドネシアの文化について紹介した。
東住吉小学校6年生24人(美術情報コーナー)

「とびだせ! アジア美術館」(3/1) 写真⑨⑩

こども総合相談センターに展示されたインドネシアの所蔵品について説明したり、ピン乗せ競争というインドネシアの遊びを紹介した。
小・中学生約20人(こども総合相談センター)

●ワークショップ

「想像のインドネシア」(2/29) 写真⑪～⑬

インドネシアの小学生に送る絵はがきを制作した。
今宿小学校4年生24人(今宿小学校)

調査・研究

①～⑥



講演会(あじび美術講座)

「プロパガンダのための美術：インドネシア美術における日本の影響」(3/15) ⑥⑦



トーク

「スクール・プログラム」(2/28) ⑧



「とびだせ! アジア美術館」(3/1) ⑨⑩



ワークショップ

「想像のインドネシア」(2/29) ⑪～⑬



主な活動

韓国の釜山芸術高等学校から生徒と教師を7日間招聘し、「おいでよ！絵本ミュージアム」展に関連した3つのワークショップを通して、福岡の高校生との交流を図った。

- 期 間 8月1日(水)～8月7日(火)
- 参 加 校 釜山芸術高等学校(生徒10人、教師2人)
福岡市立福翔高等学校(生徒5人、教師1人)
福岡市立西陵高等学校(生徒3人、教師1人)
福岡市立博多工業高等学校(生徒1人、教師1人)
九州産業大学附属九州高等学校(生徒3人、教師1人)

8月1日(水) 写真①

ワークショップ①「マチスましーん」(講師：安齋利洋、中村恵理子)
講師が用意したのは、カラフルな紙と6つの切り絵。高校生たちはそこから自由に連想して、様々な切り絵を発展させた。

8月2日(木) 写真②③

ワークショップ②「ビスケット」(講師：原田康徳)
1日目に作った絵を自由に組み合わせ、それぞれの「うごき」をパソコンでプログラミングした。

8月3日(金) 写真④⑤

ワークショップ③「ムービーカード」(講師：宮原美佳、杉本達應)
プログラミングした動画を組み合わせて物語を作るワークショップ。日韓の高校生が2人1組となり、1冊の絵本を完成させた。

8月4日(土)

絵本の完成／スケッチ／コレクション展の鑑賞授業

8月5日(日) 写真⑥⑦

アーティスト・トーク(安齋、中村、宮原、杉本)

8月6日(月)

熊本研修旅行(熊本市現代美術館ほか)

ワークショップ

「マチスましーん」(8/1) ①



「ビスケット」(8/2) ②③



「ムービーカード」(8/3) ④⑤



アーティスト・トーク(8/5) ⑥⑦



美術作家・研究者・学芸員等招聘事業実施要綱

- 1 総則
福岡アジア美術館(以下「当館」という。)における美術作家・研究者・学芸員等招聘事業を実施するため、この要綱を定める。
- 2 目的
アジアの美術作家・研究者・学芸員等を当館に一定期間招聘し、市民との交流事業などを推進することにより、市民のアジア美術に対する理解・関心を深め、地域文化の質的向上に努めるとともに、アジア美術の交流拠点を目指す。
- 3 事業内容
(1)招聘予定者は、「福岡アジア美術館企画運営会議」で選考する。
(2)当館は、被招聘者専用滞在施設もしくは福岡市内の宿泊施設を提供し、当館の交流スタジオおよび招待者用研究室等においての制作活動及び研究活動等を支援する。
(3)当館と被招聘者は、共同して滞在期間中に被招聘者による市民との美術交流事業を企画、実施する。
(4)被招聘美術作家は、制作活動の成果として、滞在の最後に当館と共同して展覧会を開催する。
- 4 実施条件
この要綱に定めるもののほか、事業の実施について必要な事項は別途定める。

附則

この要綱は、平成15年6月1日から施行する。

美術作家招聘要領

- 1 招聘の目的
アジアの美術作家を福岡アジア美術館(以下「当館」という。)に一定期間招聘することで、市民がより積極的に美術作品に親しむ機会を提供し、市民のアジア美術への関心や制作活動への理解を深める。
また、招聘者相互の交流、招聘者と地元美術界との交流を促進することで、アジア各国の美術の現状を理解し合うとともに、招聘者の新たな表現活動への模索の場となることを目指す。
- 2 主催
福岡アジア美術館
- 3 実施形態
(1)招聘対象者
招聘者は次の要件を満たすものとする。
ア 現在、活動実績が認められている美術作家もしくは将来の活躍を期待される美術作家で、当館が規定するアジアの国籍を有する個人、及び他国籍アジア系の個人(ただし、日本人および在日外国人は除く)。
イ 日本での日常生活が可能な程度の日本語、もしくは英語が話せる者。
ウ 日本での生活に支障のない健康体である者。
- (2)招聘人数
4名
- (3)招聘期間
原則として3カ月とする。
- (4)創作活動場所および住居
当館が指定する市内の宿泊施設に滞在し、当館内の交流スタジオ等で創作活動を行う。
- (5)招聘の条件
制作活動にあたっては、以下の要件を課す。
ア 招聘者は、あらかじめ詳細で具体的な制作プランを当館に提出する。
イ 制作過程は、原則として公開とする。
ウ 滞在制作中に市民参加が可能な何らかの美術交流イベントを実施する。
(例)市民参加型作品(鑑賞者が作品に働きかけをすることで成立する作品)の制作と発表、公開制作イベント、実技講座、講演会など
エ 滞在制作の最後に、当館において展示発表を行う。
オ 制作した作品およびその著作権は、作家に帰属する。

- (6)主催者の負担
主催者は事業推進にあたり、以下の経費を予算の範囲内で負担する。
ア 往復渡航費
イ 生活費
ウ 制作活動にかかる経費
エ 展示及び交流事業にかかる経費
オ 海外旅行傷害保険の加入料
- (7)その他の助成
ア 制作活動場所
イ 宿泊施設
ウ 制作活動に関するアドバイス
エ 滞在期間中の語学(日本語・英語)講座への入講案内
オ 福岡滞在にあたっての生活ガイダンス

研究者・学芸員等招聘要領

- 1 招聘の目的
アジアの近現代美術の研究者もしくは学芸員等を福岡アジア美術館(以下「当館」という。)に一定期間招聘し、研究・企画を推進することにより、世界的なアジア美術研究の発信地としての拠点づくりを目指すとともに、アジア美術の展覧会についての新たな展開を共に模索する。
また、市民との交流活動を通じてアジア美術についての理解・関心を深め、地域文化の質的向上を図る。
- 2 主催者
福岡アジア美術館
- 3 実施形態
(1)招聘対象者
招聘者は次の要件を満たす者とする。
ア 研究者:アジアの近現代美術研究における実績があり、将来、研究者としての活躍を期待される個人で、国籍は問わない。
イ 学芸員:美術館等に勤務し、アジアの近現代美術展企画の実績がある学芸員、及び同様の実績があり、将来の活躍が期待される個人で、国籍は問わない。
ウ 日本での日常生活が可能な程度の日本語、もしくは英語が話せる者。
エ 日本での生活に支障のない健康体である者。
- (2)招聘人数
2名
- (3)招聘期間
原則として3カ月とする。
- (4)研究・企画場所および住居
当館が指定する市内の宿泊施設に滞在し、当館内の招待者用研究室等においてアジア近現代美術についての研究を行う。
- (5)招聘の条件
研究テーマや企画内容などの詳細な活動計画をあらかじめ当館に提出する。
- (6)主催者の負担
主催者は、事業推進にあたり、以下の経費を予算の範囲内で負担する。
ア 往復渡航費
イ 生活費
ウ 研究・企画等に要する経費
エ 旅行傷害保険の加入料
- (7)その他の助成
ア 研究・企画場所
イ 宿泊施設
ウ 滞在期間中の語学(日本語・英語)講座への入講案内
エ 福岡滞在にあたっての生活ガイダンス